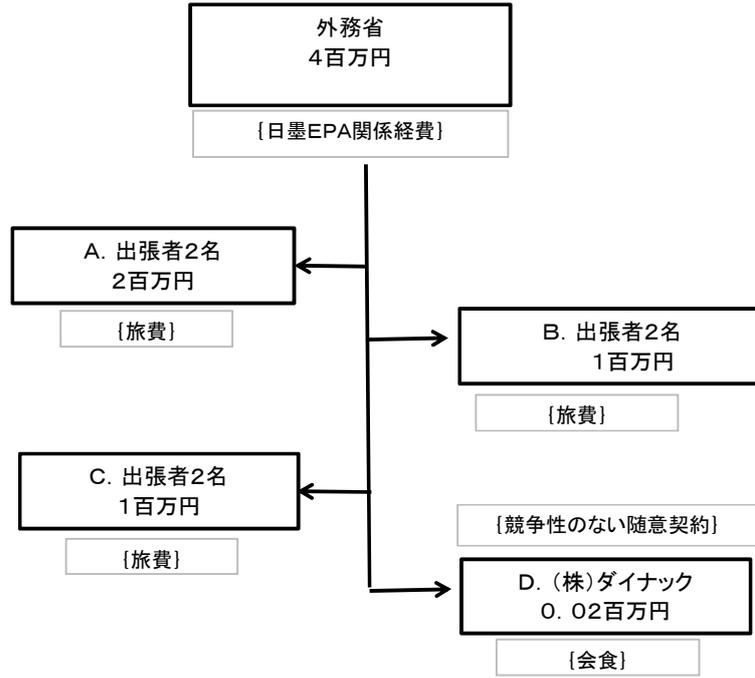


平成23年行政事業レビューシート (外務省)

事業名	日墨経済連携協定各種委員会関係経費		担当部局庁	中南米局		作成責任者		
事業開始・終了(予定)年度	平成18年度		担当課室	中米カリブ課		課長 野口 泰		
会計区分	一般会計		施策名	I-3 中南米地域				
根拠法令 (具体的な条項も記載)	外務省設置法第4条第2号		関係する計画、通知等	—				
事業の目的 (目指す姿を簡潔に。3行程度以内)	2005年4月1日に発効した日・メキシコ経済連携協定(日墨EPA)の円滑な実施を確保するため、各種委員会の開催準備、会合の開催、会合の結果のフォローアップ等を実施する。							
事業概要 (5行程度以内。別添可)	2005年4月1日に発効した日・メキシコ経済連携協定では、日・メキシコ両国間で協定の運用に必要な所要の決定等を行う他、協定の実施及び運用の見直しや協定の改正について検討及び採択することを任務とする「合同委員会」(議長は閣僚又は次官レベル)、また、「合同委員会」の下で個別分野について両国間の事務レベルの協議を行う10の小委員会が設けられており、さらに、両国のビジネス環境の改善について、民間の代表者も参加して両国間で協議するメカニズムとして、「ビジネス環境整備委員会」(高級事務レベル)が設けられている。							
実施方法	<input checked="" type="checkbox"/> 直接実施 <input type="checkbox"/> 業務委託等 <input type="checkbox"/> 補助 <input type="checkbox"/> 貸付 <input type="checkbox"/> その他							
予算額・執行額 (単位:百万円)	予算の状況	当初予算	20年度	21年度	22年度	23年度	24年度要求	
		補正予算	-	-	-	-	-	
		繰越し等	-	-	-	-	-	
		計	6	8	6	5	5	
	執行額	5	2	4	-	-		
	執行率(%)	83.3%	25%	66.7%	-	-		
成果目標及び成果実績 (アウトカム)	成果指標			単位	20年度	21年度	22年度	目標値 (23年度)
	<成果目標>日墨EPAの運用(含:再協議)を適切に行う。日墨EPAの再協議の進展(平成22年度には実質合意達成)等により、対墨輸出額を増やさせる。 <成果実績>対墨輸出額。		成果実績	億円	9327	6881	8438	9300
			達成度	%	-	-	-	-
活動指標及び活動実績 (アウトプット)	活動指標			単位	20年度	21年度	22年度	23年度活動見込
	協定見直しの協議及び協定の運用の確認のための会合への出席。		活動実績 (当初見込み)	会議の回数 (延べ数)	4	2	6	- (2)
単位当たりコスト	667千円		算出根拠	平成22年度において実施された会合にかかった総経費(4百万円)/会合回数(6)				
平成23(単位:千円)年度予算内訳	費目	23年度当初予算	24年度要求	主な増減理由				
	旅費	4,836	4,517					
	会議費	215	193					
	謝礼	172	154					
	計	5,223	4,864					

事業所管部局による点検			
	評価	項目	特記事項
目的・予算の状況	○	広く国民のニーズがあり、優先度が高い事業であるか。	
	○	国が実施すべき事業であるか。地方自治体、民間等に委ねるべき事業ではないか。	
	○	不用率が大きい場合は、その理由を把握しているか。	
資金の流れ、費目・用途	－	支出先の選定は妥当か。競争性が確保されているか。	
	－	単位あたりコストの削減に努めているか。その水準は妥当か。	
	－	受益者との負担関係は妥当であるか。	
	－	資金の流れの中間段階での支出は合理的なものとなっているか。	
	－	費目・用途が事業目的に即し真に必要なものに限定されているか。	
活動実績、成果実績	－	他の手段と比較して実効性の高い手段となっているか。	日墨EPA関連会合は、双方で協議すべき事項が生じた際に実施するため、事前に活動見込みを立てるのは困難であり、必要な議題が生じたときに確実かつ適切に協議を行うことが重要。 両国間の経済関係については、多くの要素が関係することもあり、日墨EPAのみの効果を測定することは困難であるが、両国間の貿易額の変化は一定の指標を提供するものと考えられる。
	－	適切な成果目標を立て、その達成度は着実に向上しているか。	
	－	活動実績は見込みに見合ったものであるか。	
	－	類似の事業がある場合、他部局・他府省等と適切な役割分担となっているか。	
	○	整備された施設や成果物は十分に活用されているか。	
点検結果		<ul style="list-style-type: none"> 各種委員会を同時に開催することで、少ない出張回数で多くの会合をこなすことができた。 金融危機後の世界経済の停滞の中で、両国間の貿易量は迅速な回復傾向を見せており、日墨EPAの適切な運用が効果を発揮していることが確認される。 テレビ会議の活用等により、事前に内容を詰めた上で出張することで会合をより成果の高いものにする工夫を今後とも続けていく必要がある。 	
予算監視・効率化チームの所見			
一部改善		事業の見直し、単価の見直し	
		上記の予算監視・効率化チームの所見を踏まえた改善点(概算要求における反映状況等)	
		縮減(事業の見直し、単価の見直し)	
補記 (過去に事業仕分け・公開プロセス等の対象となっている場合はその結果も記載)			

※平成22年度実績を記入



資金の流れ
(資金の受け取り先が何を行っているかについて補足する)(単位:百万円)

費目・使途
 (「資金の流れ」
 においてブロックごとに最大の
 金額が支出されている者について
 記載する。費目と使途の双方
 で実情が分かるように記載)

A.			E.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
旅費	出張者A	1			
計		1	計		0
B.			F.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0
C.			G.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
旅費	出張者A	1			
計		1	計		0
D.			H.		
費目	使途	金額 (百万円)	費目	使途	金額 (百万円)
計		0	計		0

支出先上位10者リスト

A.

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者A	外国出張	1	-	-
2	出張者B	外国出張	0.4	-	-
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

B

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者A	外国出張	0.9	-	-
2	出張者B	外国出張	0.6	-	-
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

C

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	出張者A	外国出張	1	-	-
2	出張者B	外国出張	0.4	-	-
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					

D

	支出先	業務概要	支出額 (百万円)	入札者数	落札率
1	(株)ダイナック	レストラン	0.02	随意契約	-
2					
3					
4					
5					
6					
7					
8					
9					
10					